**２０２４年 研究レポート**

**▼対象者**

|  |  |
| --- | --- |
| 社員番号 | 氏名 |
| 220750058 | **大迫　かなた** |
| 所属部署（本部～係） | |
| ICT事業本部　KCビジネスソリューション事業部  ｼｽﾃﾑ開発技術部　鹿児島ｼｽﾃﾑ開発2課　鹿児島ｼｽﾃﾑ開発2A | |

**▼作成指導者**

|  |  |
| --- | --- |
| 社員番号 | 氏名 |
| 180450542 | **橋口　尭史** |
| 所属部署（本部～係） | |
| ICT事業本部　KCビジネスソリューション事業部  ｼｽﾃﾑ開発技術部　鹿児島ｼｽﾃﾑ開発2課　鹿児島ｼｽﾃﾑ開発2A | |

|  |
| --- |
| エントリー区分（ビジネスプラン／業務改善） |
| 業務改善 |
| 研究テーマ |
| 業務改善のための、AI検索ツールの検討と活用 |

＜ 提出方法 ＞

上長承認(事業部長～チームリーダー)を得た論文(Word)を、下記の通りメール(Googleドライブ共有)でお送りください。

メール宛先 ：　TO：　kenshu@kccs.co.jp (担当者：黒瀬菜穂)、

CC：　作成指導者、発表者の上長(事業部長 ～ チームリーダー)

件名 ：2024年研究レポート論文提出

添付ファイル名 ：業務改善orビジネスプラン【氏名】2024年研究レポート.docx

※kenshu(group)への提出(メールの到着)が1分でも遅れた場合、審査項目・審査基準に記載の通り、減点となります。

※表紙はP.0とし、次ページよりP.1(20ページ以内で作成)とします。

# 要旨

　本稿では、業務内での情報収集における課題を明らかにし、情報収集に費やす時間を削減する為、AIを用いた検索ツールの検討と活用について提案する。

　情報収集の現状について調査を実施し、調査結果より情報収集における課題点を明らかする。又、課題解決の為に検索ツールの検討を「検索対象（学習対象）」「情報の信憑性」「セキュリティ」「表示形式」「導入のしやすさ」「料金形態」「confluenceとの親和性（※KCBS事業部内でナレッジマネジメントシステムとして導入している為）」「slackとの親和性」の8項目に基づき実施する。

検討の結果、Atlassian社が提供するAI搭載のツールセット「Atlassian Intelligence」に着目して、機能を用いた検証を行い、実際にどのくらいの時間を削減できるか理論値を算出し、年間○○時間　金額に直すと○○円の削減が見込める結果となった。また検証を行った結果、発見された課題について今後の~

# 1. テーマ選定理由

私たちは日々の業務で様々な場面において、WebサイトやConfluence、Slackなどの情報ソースを活用し、情報収集に努めている。私自身その作業自体がなければ業務が成立しない状況にまでなっていると感じている中で、Web上には膨大な情報が存在し、また、SlackやConfluenceに蓄積された情報も整理されずに存在することが少なくない。この為、必要な情報を得る為には情報がどこに存在しているのか知っておく必要がある。規定集や採算表等、使用頻度が高い、又は、どこにあるか確実にわかるものであれば検索に時間はあまりかからない。しかし、初めて検索する情報やそもそも情報が存在しうるか不明な場合は、情報ソースが何かということもわからない場合が多く、その場合、どこに存在するのか人に聞いたり手当たり次第に検索をしたりする必要がある。人に聞く場合、誰に聞けばよいか目星がついている場合はそこまで時間はかからないかもしれないが、目星がついていないという場合には一人ひとりに確認していくか、誰が知っているかまた情報を得ようとするだろう。目的の情報にすぐたどり着く為には何でも情報を知っている某ネコ型ロボットのような存在がすぐ話を聞ける距離にいてくれることが必要だ。実際にそんな人物はいつでも時間が空いているというわけではない場合が多い為、やはりすぐ情報を手に入れるということは難しいと感じる。

手当たり次第に検索をする場合についても考える。いくつかの情報ソースから順に検索をしていき、その中ですぐに目的の情報にたどり着くことができれば良いが、一つ一つ情報ソースを確認していき、最後の方でやっとたどり着ける場合やそもそも情報が存在せず最終的に目的の情報を得ることができずに時間だけが消費された等という場面も少なくない。又、検索のキーワードが適切なものではなく検索してもヒットしなかったり、反対にヒットした結果が膨大で一つ一つを確認することに時間を費やしてしてしまったりすることも業務中何度も遭遇した。

　こういった課題に対し、社会現象を巻き起こし、近年新しい言語モデルである「GPT-4」を組み込んで話題となっている「ChatGPT」といった生成系AIのように、対話式で情報を提供してくれるAI検索ツールは有効でないかと考え、今回AI検索ツールの検討と活用を実施することに至る。

# 2. 情報収集における現状の調査